## 教皇様、ありがとう

ここ数年、マスコミに取り上げられる教皇様のお姿は、変わることでしたといい。一つは、身体が時間とといいうです。もうしていく姿です。もうい現象では、で大石されない現象である。これは、で、世界中で熱意を持った群衆が教皇を取り囲む姿です。これは、います。

この事実に様々な解釈が試みられました。人々が教皇様に近づく理由を解き明かし、ヨハネ・パウロ二世の魅力の秘密を探ろうとしましたこのも人は、平和への望みを広めたことだっこ世は世界を血まみれにするという中る紛争に介入し、分裂を遥かに凌ぐ真の平和に必要なゆるし合い

を、いつも忍耐強く願っておられます。他の人は、教皇様に人々が注目するのは私たちが真理を渇望してるからだと言います。それは嘘にあったで疲弊しています。これはでで変立っています。これでで変立なく宣言され、まならうことなく宣言され、まずに、教皇様は不変の真されまります。

しかし、ヨハネ・パウロ二世の並外 れた魅力を理解するには、もっと掘 り下げて考えなければならないで しょう。神学で「信仰の感覚sensus fidei | と呼ばれる、信仰の本能があ ります。これは、キリスト信者の考 えと心に息づいているものです。こ の点で、教会は教皇様と固く結ば れ、最高の牧者から離れることがで きないことが分かります。牧者がい ない教会はあり得ないからです。教 皇様は教会のために存在し、また教 会が求めるキリストのみ顔を示す方

年齢と苦悩のせいで教皇様の体力は 衰えましたが、十字架上のイエス・ キリストとの一致によって、教皇様 のお気持ちはいっそう強くなってい ます。また、惜しみない心で主の十 字架を愛しておられることは一目瞭 然です。

「キリストのみ顔を眺めること」 は、ヨハネ・パウロ二世が、第三の 千年期の幕開けに示された目標で

す。これには教会が「新たな飛躍の うちに福音宣教の使命を果たす|(使 徒的書簡「新千年期の初めに | 2番) ことができるように、という願いが 込められています。この書簡の次の ような所を読む時、教皇様につい て、また普遍教会の牧者としてのそ の使命について、考えないわけには いきません。「今日の人々は今日の 信仰者に、たとえ意識的にでなくて も、キリストについて〈語って欲し い〉だけでなく、ある意味でキリス トに〈会いたい〉と願っています。 教会の務めは、歴史のあらゆる時代 にキリストの光を放つことであり、 今日も、新しい千年期の人々の前 に、キリストのみ顔の光を輝かせる ことではないでしょうか | (同16 番)。

この主との「交わり」は、特に苦しみから生まれます。「教会は常にキリストから私の傷に触れなさいと招かれています。つまり、マリアから

りを造り、愛によって救われたことを、教皇様が再発見させてくださったからです。そして、人々がそれを認めているからに他なりません。

最初の回勅で、人間は「教会の使命 遂行において第一番に考慮されなけ ればならない存在である」と述べて おられます。信者との直接的な心の 交流に、教皇様の人間に対する情熱 が窺えます。それは人となられた神 に由来するものです。ヨハネ・パウ 口二世は、私たちに身近な方です。 キリストが、私たちのすぐ近くで共 に生き、私たちの生活を意義あるも のにしていることを思い起こさせて くださいます。十字架以外のしるし は必要ないこと、この十字架のうち に教皇様を眺めるべきこと、それを きっぱりと示しておられます。

ヨハネ・パウロ二世在位25周年記念日には、その存在の重要性、教えの深さとその実りについて考えるのは

当然です。心から感謝を表明したいと思います。ロザリオの聖母の祝日にポンペイでお頼みになったばかりの事を喜んで聞き入れ、いつも教皇様のために祈りたいと思います。こうして、子供としての愛情と感謝を誠実に表わすことになります。

オプス・デイ属人区長

ハビエル・エチェバリーア司教

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/jiao-huang-yang-arigatou/ (2025/11/20)